

チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

第41回

寮美千子氏 (作家、詩人)

人と作品/奈良少年刑務所での 社会性涵養プログラム

一般社団法人 光楓座 代表理事 佐藤建吉

▼まちなか大学院の テーマは持続可能性

筆者は、新橋まちなか大学院(東京都)という地域活動を行っている。洗楓座の活動として同じく上総まちなか大学院(千葉県)と軽井沢まちなか大学院(長野県)もやっている。

▼繋がる祖父と父のミーム

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれま



佐藤建吉(代表理事)と寮美千子氏(作家、詩人)の対談の様子(2021年)

「終戦時、父は陸軍経理学校に在学していた。非常に優秀な人だけが入れられる学校だったが、この

少年は、一家を養うべく、得意の英語を生かして進駐軍で働く。そこで、アメリカの圧倒的な豊かさ

を見せつけられ、国力の違いを思い知らされた。

空襲で家を失った父は戦後、別荘のあった上総湊で暮らして、税務署に勤めることになる。やがて

東京に転勤になり、神田の酒販問屋で働いていた母は、山梨県の石和から

出てきた農家の次女だった。母も、空襲で家を失

っていた。

わたしが生まれた頃、両親は大田区蒲田の貧民窟のようなところに住んで

いた。きつと貧しかったのだ。しかし、父は子煩悩で、よく遊んでくれた。

2歳半のときに、わたしたちは千葉の新築の公務員住宅(庭付きの一軒長屋)に引っ越したのだが、その

庭には花や実のなる木を植え、おんぶをしてくれたり、いっしょに屋根に登ったり、七夕の笹を飾ったり、たき火の思い出がある。...

連載

(元東京農業大学教授)に委嘱した。両氏については、本連載コラムの①と②で、それぞれ紹介したのでご覧いただきたい。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏の、姓である「寮」は珍しい。そのルーツは福井県福井市寮町にあるという。平安時代の仏教の学寮と関わりがあったとのことである

が、資料が焼失し祖父の代からのファミリーヒストリーについては、美千子さんがHPに掲げている紀要に報告している【註1】。それによれば、祖父と父の生き方が生きていくようである。

千子氏に少年刑務所での取り組みを講演して頂いた。その寮氏のチャレンジとミームは、生き抜く持続可能性と結びついている。

これら三つのまちなか大学院の連合組織の名義学長として古在豊樹氏(元、千葉大学学長)に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏

に、学長には宮林茂幸氏



寮美千子氏(作家、詩人)と佐藤建吉(代表理事)の対談の様子(2021年)

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。



寮美千子氏(作家、詩人)の講演の様子(2021年)

寮美千子氏は、作家である。が、同氏のこれまでの人生での「生き様」と「生き方」は、本コラムのテーマには相応しいだろう。